

事業所名 グループホーム花の里・萌
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成17年12月16日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A: 現職 介護支援専門員
資格・経験 介護支援専門員、介護福祉士、老人福祉施設(9年以上)
B: 現職 元介護支援専門員
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か (記述) その人の持っている潜在能力や意欲を引き出せるような支援をしていきたい。 このホームで暮らして良かったと思ってもらえるように関わっていきたい。そのため、行事や楽しみ事を多くして、様々なことを一緒にやりたい。 生活の中で感動したり大笑いをする事があるように支援し、ハリのある毎日を送っていただきたい。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か (記述) 急かす事無く、入居者それぞれのペースに合わせて支援している。 入居者とのコミュニケーションを大切にしている。入浴時や散歩の時には個人的なことを話して下さることもあり、ちょっとした時間も大切にしている。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

廣評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

車で倉敷方面から水島へ向かう古城池線の途中を吉岡川沿いに左に少し走ると右手の田んぼの中に2階建ての豪邸な洋館が見えてくる。周りは家や田んぼや小山があり、遠くに倉敷の街も眺められ、のどかで落ち着ける環境である。

経営者が建設業をしている関係で、設備面も充実し生活しやすい工夫が随所にある。食堂・居間・トイレ・浴室は床暖房、台所は夜間など使用しない時はシャッターが閉まるようになっており、安全面の配慮がされている。外周もきれいに整備され、花や木の配置も考えて植えられており、小さな公園のようで癒いスペースになっている。

日々のレクリエーションも充実しているし、ドライブや初詣・花見などの外出の機会も多い。行事や楽しみ事が多いため、入居者の方々はとても良い笑顔で過ごしておられた。

家族会は会費制をとっており、家族同士の親睦も図れている。家族会とホームとはよく連携が取れており、夏祭りや餅つき等の行事の手伝いや、苦情処理にも第三者の立場で参加してもらっている。家族会の意見交換ではきびしい意見も出て、ホームの質の向上にとでも役立っている。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

地域との交流はできているので、さらに発展させて認知症に関する相談や勉強会を地域の方と一緒にすれば、より開放的で楽しいホームになるのではないだろうか。

見学や研修の受け入れができていないように思える。第三者が入る事により職員も勉強になり、資質向上にもつながる。今後、ボランティアや研修の受け入れを積極的にされると、より開かれたホームになると思う。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か (記述) 以前していた事や得意だったことを踏まえて、毎日の生活の中で職員と一緒に楽しみながら手伝いや趣味活動をしている。 当たり前のことではあるが、入室時にはノックをして声を掛け、本人の了解を得てから入っている。居室の扉は開けたままにしない。3カ所あるトイレのうち、廊下の突き当たりにある人目に付くトイレは、開いたままにならないように、自動でゆっくりと閉まるようになっている。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か (記述) 事故報告書を作成し、事故の概要・原因・処置・反省と今後について・家族への連絡、の項目に分けて職員で話し合い、記録に残し、今後の再発防止に役立っている。 転倒が多かった方には、夜間のトイレに付き添うようにして事故が無くなった。他にもじゅうたんの下に滑り止めを付けたり、スリッパを靴に変える等も行った。 行事をする場合には、行事計画書を作成し、企画や職員の配置・現地の状況などを前もって把握している。行事後も入居者の状況や全体の反省を記録し、職員で共有して、これからの参考にしている。		